

CONTENTS

はじめに 3

第1章

我が国における医療情報の活用と個人情報保護の動向 13

行政的側面からみた医療情報化の動向 13

医療の情報化とデータ利活用を促進する3つの契機 13

NDB(ナショナルデータベース)活用の可能性と課題 16

データヘルスの取り組み事例 20

データヘルスのいちばんのターゲットは糖尿病 24

データヘルス活用の課題と新しい基盤づくり 26

医療情報の利活用とカード一元化の実現に向けて 27

第2章

米国における医療情報の利活用と個人情報保護の現状と課題 ... 29

CMSのデータを医療提供システムの改善に役立てる 29

CMSは2種類のリサーチデータを提供 31

データウェアハウスとバーチャルデータセンター 32

データ活用を推進するCMS Data Navigator 33

データ提供でこれまで不可能だったことを可能に 38

データ共有について 40

内部でのデータ活用例 44

第3章

NDB利活用の現状と課題 47

NDBの問題点 47

ハッシュ化しても個人が特定される可能性あり 50

NDBの利活用の仕組み 52

レセプト情報の提供形態の追加 55

NDBデータ提供に関する課題 56

第4章

DPCデータベースを用いた臨床疫学研究 57

DPCデータ研究の取り組み 57

研究例1:肝切除術の施設別症例数と死亡率 60

研究例2:我が国における胃瘻造設術の実態 61

研究例3:急性肺炎の予後予測 62

研究例4:泌尿器科手術に腸管前処置は必要か? 64

研究例5:肺塞栓に対する下大静脈フィルターの効果 65

データ利活用におけるアカデミアの役割 67

第5章

医療情報の分析からみえる地域医療とその将来像 69

DPCとNDBのデータを活用した地域医療計画 69

京築医療圏の医療提供体制を分析 71

疾病ごとのアクセシビリティもわかる 74

医療需要を推計し未来に備える 78

福岡県の取り組み 82

各地域・各施設の情報活用力が問われる 85

第6章

日本における医療情報と個人情報保護の法的側面 87

- 医療情報化の3つの大きな課題 87
- 個人情報保護法が警察の捜査の足かせに 88
- 過剰な同意主義に走る日本 89
- 個人情報保護法制度の背景 90
- 医療情報の特質とルールづくり方 90
- 高齢化社会では「忘れられない権利」が重要 91
- 医療情報の共有と活用を目指す 93

第7章

患者の立場からみた医療情報と個人情報保護 95

- 病院内での個人情報の取り扱いについて 95
- 個人情報に対する患者の意識は二極化 97
- 医療情報の利活用に必要なのは患者の理解 98

第8章

電子カルテ医療情報の利活用とその課題 101

- 利活用とは循環させること 101
- 医療情報と臨床研究データとの違い 101
- レセプトと電子カルテの違い 103
- 電子カルテ由来DBの紹介(MID-NET) 104
- 電子カルテ由来DBの3要素①「標準化」 106
- 電子カルテ由来DBの3要素②「データ品質」 109
- 電子カルテ由来DBの3要素③「特性/妥当性検証」 110
- 「生きている」データベース 111
- 人材育成と資格化の可能性 112

第9章

医療情報の利活用と公的統計調査の調査票情報 113

- 医療情報と統計情報 113
- 平成19年の統計法の改正について 115
- 統計調査データの利用の仕組み 117
- 統計調査情報の利用促進にむけて 119

付録 - Panel Discussion

医療情報の利活用と個人情報保護に向けて 123

- エビデンスを伝える力を育てる 124
- インフォームドコンセントのアメリカの失敗 125
- 医療情報は誰の情報か? 126
- データ管理のコストとメリット 128
- 遺伝情報の扱いについて 130
- 医療情報の公的な利用と商業的な利用 136
- 医療情報の利活用と個人情報保護に必要なもの 137

おわりに 142

索引 146

分担執筆者紹介 148